

2025

SUPER GT
RACE REPORT

Rd.7

10.18[sat] - 19[sun]

[place] オートポリス (大分県日田市)

[weather] **sat** 晴れのち雨 / **sun** 雨のち曇り

[spectators] 26,000人 (**sat** 10,000人 / **sun** 16,000人)

STYLIS AUTOPOLIS

Rd.1 OKAYAMA >> APR 12-13

Rd.2 FUJI >>>>>> MAY 03-04

Rd.3 SEPANG >>>> JUN 27-28

Rd.4 FUJI >>>>>> AUG 02-03

Rd.5 SUZUKA >>>> AUG 23-24

Rd.6 SUGO >>>>>> SEP 20-21

Rd.7 AUTOPOLIS > OCT 18-19

Rd.8 MOTEGI >>>> NOV 01-02



TOM'S

トップ争いに加わるも、
アクシデントに見舞われ13位。
最終戦で3連覇達成を狙う。



2025 AUTOBACS SUPER GT Round7 AUTOPOLIS GT 3Hours RACE が、10月18日(土)、19日(日)にオートポリスで行われた。#1 au TOM'S GR Supra (坪井翔／山下健太) は、61kgのサクセスウェイトを背負い、一時はトップ争いに加わる走りを見せていたが、終盤にアクシデントに見舞われ、悔しい戦線離脱。13位でレースを終えた。



1

TGR TEAM au TOM'S



SHO TSUBOI 坪井 翔

KENTA YAMASHITA 山下 健太

Rd.7 Result

Qualifying **7** 位 >> Driver Standings **1** 位
Race **13** 位 Team Standings **1** 位

Qualifying 1 山下 : P5 / 1'33.053

Qualifying 2 坪井 : P7 / 1'42.158

Race
ファステストラップタイム

坪井 : 1'36.932

山下 : 1'37.854

QUALIFYING

天候：曇りのち雨／気温：21℃／路面温度：23℃



不安定な天候のなか、 1号車は冷静にQ2進出。 7番グリッドから上位目指す。

シーズン7戦目となる今回は、サクセスウェイトが半減し、ドライバーズポイント1点につき1kgを各車が背負う。ランキング首位を快走する1号車は、61kgのウェイトとなり、燃料リストリクター制限(1段階)が入るなかで、上位を目指した。

公式練習の開始直後は晴れていて気温も高かったが、セッション途中から曇り空となり、終盤には雨がパラつく不安定な天候となった。予選は小雨が降るなか、GT300クラスで中断があった影響で、予定より遅れてセッションがスタート。いつ本降りになってもおかしくない天候のなか、Q1担当の山下は5番手で通過を果たした。Q2では開始直前に本降りとなり、坪井はウェットタイヤを履いてピットアウトしたが、セッションの途中で新しいタイヤに交換するなど、ライバルとは異なる作戦をとるも、思うようにタイムを縮めることができず、7番グリッドとなった。

Race

天候：曇り／気温：22℃／路面温度：25℃

表彰台争いに加わるも、 アクシデントの症状に見舞われ、 悔しいピットインを強いられる。



今回は3時間レースのため、途中2度のピットストップが必要となる。7番グリッドからスタートする1号車は、山下が最初にマシンに乗り込んだ。序盤からアクシデントが発生し、セーフティカーが導入される波乱の展開となるなか、冷静にチャンスを探っていき29周目には4番手に浮上。その後、開始から1時間を過ぎた34周目にピットインし坪井に交代。チームも迅速な作業で送り出してライバルを逆転し、トップの車両が目の前に見える位置で中盤戦を展開していった。

しかし、レースの折り返しを過ぎたあたりから、エンジンのパワーが落ち始める症状に見舞われ、69周目には緊急ピットイン。応急処置によりペースを取り戻したが、大きなトラブルを避けるため戦線離脱を選択し残り1時間を切った76周目にマシンを止めた。チェッカーフラッグは受けられなかったが規定周回数をクリアしているため、結果は13位となった。

TOM'S



ペースは良かったのですが、上位のマシンが接近し、つながる展開になったので、最終スティントのことを考えてタイヤや燃費を意識する走りをしていました。普通に走れていれば、優勝も狙えるような雰囲気がありました。ただ、途中からパワーが出なくなるような症状に見舞われて、直線でも15~20km/hくらい遅くなりました。SUGO、オートポリスと流れの良くないレースが続いているので、もてぎではしっかりと勝ってチャンピオンを決めたいと思います。



スタートからペースは良かったのですが、前のマシンに追いついてもなかなか追いつくことができませんでした。でも、3時間レースなので後半に必ずチャンスが来ると思って、他車と接触をしないように気をつけながら、タイヤと燃費をセーブして、坪井選手にバトンを渡すことに集中しました。途中までは完璧に近いレースができていたと思いますが、アクシデントに関しては仕方ありません。これもレースです。ポイントリーダーで最終戦に臨めるので、しっかりとチャンピオンを決めたいと思います。



ペースが良かったとはいえ、ライバルを追い抜くのは簡単ではない展開でした。そのなかでも、すごく良い感じで追い上げていて、上位入賞の可能性はかなりあったのですが、エンジンのパワーがダウンする症状に見舞われました。原因についてはしっかりと調べる必要がありますが、このエンジンを最終戦にも使わないといけなため、大きなトラブルが起きるリスクを回避するために、途中でピットに戻るという決断をしました。



今回も1号車は他車より重く、パワーも抑えられたサクセスウェイトではありましたが、いつも通り2人のドライバーが素晴らしい走りをしてくれて、一時は37号車とともにワンツーフィニッシュも狙えるのではないかと期待するくらいのパフォーマンスを見せてくれました。最後まで走れなかったのは残念ですが、最終戦がより一層面白くなったと思います。もてぎは昨年、一昨年と勝っているコースですので、しっかりとチャンピオンを目指して頑張っていきます。

aw

KDDI

アヲキヨ

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
RacingTGR-DC
TGR Driver Challenge Program

TGR-D

BRIDGESTONE

Entowa's
NUSHDRY ZERO
ドライゼロ
ALC 0.00%Yc
Yi-Chiu Group

バンテリン

Happiness in Your Life
広島トヨペット

Deloitte.

MASEKI
GEINOSHA

Achilles

TAMIYA

QREX
QUANTUM RACING EXPERIMENT豊通テック
TEC

Valer

uchino

bryza

HR
HYTECH DESIGNEDIFICE
CASIO

P&S

Miyadera

JAPAN
TRUCK SHOW
2026LHG
Logistics Handling Center

BRIDE

FUKADEN

S&D
TAMA GROUP

HRX

PORTS.CO.JP

ThreeBond

Mizuno

ENKEI

both.

KVA

MECHANIC WEAR